

まちの名に 歴史あり

問い合わせ 文化財事業団 (TEL 893・8111)

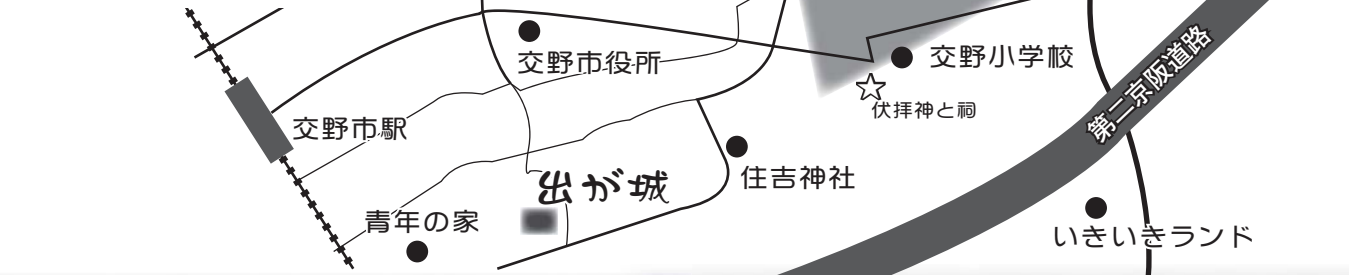
やけがいと 焼垣内

現在の青山3丁目にあたる地域を焼垣内と呼びます。この地域は免除川がたびたび氾濫し、荒れ地であったため、村人が土砂で垣を作り、それで囲って開墾したと言われています。

土砂は水持ちが悪く、日照りが続けば作物が枯れてしまう過酷な土地であったため、この名が付いたのかもしれませんが。

この地域では旧石器時代から中世までの幅広い時期の遺跡が発見され、出土品には矢尻や須恵器などの遺物が多く出土し、古墳や集落が存在したことをうかがわせます。

～私部・青山～



でがしろ 出が城

青年の家付近に畑中というバス停があり、ここから北の地域を出が城と呼んでいます。江戸時代には「土居が城」と呼ばれ、それがなまって出が城と呼ばれるようになったと言われています。

土居とは館を防備するために囲った土の壁のことで、これが後に城郭へと発達していきます。この辺りは、昭和40年代までは壕をめぐらした建造物が部分的に残っており、私部の豪族が住んでいたことが分かりました。また、この付近から瓦や土師器が発掘され、豪族が住んでいた時代は室町時代ではないかと推測できます。

さいがっじ オケ辻

現在の交野小学校から北側周辺をオケ辻と呼び、私部村の東はずれにありました。

昔から村はずれには、悪霊や疫病が村に入りこまないように、道の片隅に「道祖神」という石仏や地蔵を祀ることがあります。道祖神は「さいのかみ」とも呼ばれ、私部村の出入り口にあたる辻に道祖神が置かれていたことから、オケ辻と呼ぶようになりました。

現在も交野小学校の正門近くに、明治40年ごろに作られた伏拝神と小さな祠を見ることができます。



交野小学校の正門近くに建つ祠(手前)と、二月堂と刻まれた伏拝神(奥)

ぎょうどの 行殿

焼垣内の西、オケ辻より北の免除川に沿った地域を行殿と呼びます。

地名の由来は二つあります。一つは、この地域一帯が経田(読経料として寺へ寄進された荘園)であり、それがなまったという説です。この荘園が寄進されたお寺は光通寺だと言われています。

もう一つは、この地域の免除川付近にため池があり、そこに行者が水浴をして修行した堂があったと言われています。このため池は行堂の池と呼ばれ、現存しています。その行堂が「行殿」となったのかもしれませんが。